

つながる・支える 地域支援員

地域支援員は地域情報の発信や、地域おこし活動、地域内外の交流をはかり、地域の力を強くするために市職員として働いています。



▲活動内容や「地域支援員だより」を見ることができます



皆さんの笑顔にやりがいを 感じます



ひがし あゆみ
東 歩
(和歌山県出身)

私は、**玖島地区活性化**を担当しています。

玖島の里づくり交流拠点施設（通称：玖島花咲く館）を中心に、企画や取り組みを行っています。また、玖島地区の魅力をSNSを通じて発信しています。

地域支援員になる前の1年間、放課後児童支援員として市内の児童会で働いていましたが、その前の13年間は牧師として県内の教会・保育園・高齢者施設の運営に関わっていました。

玖島地区の皆さんにとっては当たり前で、生活に根付いている伝承料理や保存食、風習など昔ながらの知恵と伝統が息づ

いていることは、他県で生まれ育った私にとって、とても印象深く魅力的なので、スポットを当てていきたいと思っています。

主役は皆さんで、私は後押しや併走する役割ですが、一緒に取り組んだことが実を結び、笑顔で「またやりたい！」と言われることにやりがいを感じています。

海や山が豊かにある自然環境で、生活も子育ても仕事にも「ちょうどいい」廿日市。

県内外から玖島に関わる人が増えるような取り組みを目標に、これからも活動していきたいと思っています！



農業をきっかけに山間部を 盛り上げたい！



いぬい けんじろう
乾 堅士郎
(廿日市市浅原出身)

私の担当は**地域農業活性化**です。

浅原の農園でアルバイトをしていたときに地域の人から「地域支援員になってもらいたい」と声をかけてもらい応募しました。

地元の農業をする人たちと協力して、取り組んでいることがあります！

まずは地域のイベントや、スーパー、産直市場などで特産品を販売しPRすること。

次に、地域の新たな特産品の普及ですね。1番のすすめはマコモタケ！「マコモタケプロジェクト」と称して、料理教室・ほ場見学・収穫体験を行い、マコモタケのことをたくさんの人に知ってもらえるよう、活動しています。

そして、農業体験を通じた交流人口増加への取り組みなどを行っています。

地域の人と良好な関係を築き、思いをくみ取りながら仕事を進めるように心がけています。

廿日市市は【都市部】と【山間部】の距離が近く、通いで農業を行ったり、農産物の販路を確保するのに有利な所だと思います。この地で農業をしてみたいと思える人を少しでも増やして、山間部の活性化に繋がるよう、これからも楽しみながら頑張っていきたいです！



「宮島細工」の技術や魅力を次世代に！



しも ら ゆき
下村 祐介
(三重県出身)

私は**伝統工芸継承**を担当しています。

大学での宮島口クロの実習をきっかけに作品を制作し始め、大学院を卒業した後は、高校で非常勤講師をしながら木工作家として活動していました。

国の伝統工芸品にも指定されている宮島細工の技術や魅力を次世代に伝えていくため、日々、技術の習得と普及促進に取り組んでいます。

宮島細工を多くの人に知ってもらうために、展覧会や体験イベントを行っています。

昨年11月には、はつかいち美術ギャラリーで宮島細工の匠展を開催。今年の二十歳のつどいでは、宮島口クロの豆盆を記念品と

して制作しました。

宮島細工の後継者や作り手の不足は深刻な問題です。自分一人が頑張るだけでは限界があるので、同じ思いを持つ仲間を見つけ、共に未来を守る取り組みをすることが不可欠なんです。

現在、宮島の自宅兼工房で作品や商品を制作しています。今後は、自宅の旧店舗部分を活用し、宮島口クロを体験できるお店を開き、多くの人に宮島の伝統工芸に触れてもらいたいんです。

